

秋田大学教育文化学部研究紀要
人文・社会科学第75集別刷 令和2年3月

稚内市における水産業を中心とする空間商品化の地域性

篠原 秀一

Regional Characteristics of Space Commodification by Fishing
Industries and others
in Wakkanai City, Hokkaido Prefecture, Japan

SHINOHARA Shuichi

稚内市における水産業を中心とする空間商品化の地域性

篠原 秀一

Regional Characteristics of Space Commodification by Fishing Industries and others in Wakkanai City, Hokkaido Prefecture, Japan

SHINOHARA Shuichi

Abstract

Wakkanai is the most north city in Japan, and Wakkanai was a city where large quantity of fishes were landed at fishing ports. Landed quantities of fishes at Wakkanai ports have become quite small, but, fishing industries on the most north Japan are still important factors for space commodification and regional images of Wakkanai. The coldness is still strong in images of Wakkanai, and these images come from images of winter at Wakkanai. Recently, refreshing sunlight and breeze become the newest factors of space commodification and regional images of Wakkanai, and these new factors were brought to Wakkanai by the outside residents.

Key Words : fishing industries, space commodification, regional images, Wakkanai City, Japan

I. はじめに

1. 大都市僻遠市町村と漁業集積地

大都市僻遠地には数多くの漁業集積地があるが、大都市僻遠地が必ず漁業集積地ではないし、漁業集積地すべてが大都市僻遠地にあるわけでもない。一般に、漁業集積地は「漁村」と呼称されるが、「漁村」が必ず行政的に「村」であるわけでもなく、行政的な「市」域に漁業集積地が存在することもある。つまり、大都市僻遠地の「市」域にも漁業集積地域は存在する。

「漁業集積地」は端的に漁業者の多い（あるいは漁業者率の高い）地域といえるが、「大都市僻遠地」の定義・想定は簡単ではない。大都市からどのくらい離れていれば「僻遠」と言い得るのかは、さまざまに考えられる。つまり「僻遠」の指標を物理的距離とするのか、時間距離とするのか、旅客・物流動量を指標とするのか。篠原（2018）は、国勢調査報告の都市圏定義を参考に、2010年の国勢調査結果を基に、日本列島の臨海市町村域を、中心市が昼間人口100万以上の「大都市圏」、50万以上の「準大都市圏」、50万未満ながら「中核市」の「都市圏」、そして上記3種都市圏に隣接する「都市隣接圏」、それ以外の市町村に分類した。この「それ以外の市町村」が、篠原（2018）の想定した大都市圏・都市圏僻遠市町村、簡略化して言えば「大都市僻遠地」である。

この「大都市都市僻遠地」には昼間人口が夜間人口を上回る自立的地域もあり、漁業者率が全国平均よりも高

い漁業集積地域もそうではない地域もある。ただし、篠原（2018）の結果をみても、漁業集積度の高い地域は大都市圏・都市圏・都市近郊よりも僻遠地域に多い。

本論考は、篠原（2018）の結果を参考に、漁業集積度の高い大都市僻遠の自立的な一事例地域として稚内市を選定し、現在の水産業が稚内市の土地柄・地域イメージにどれほど影響し、地域経済・活性化の大きな手段ともされる「空間商品化」でどの程度の重要性をもつのかを検討する。「空間商品化」の地域事例については、篠原（2013）における羅臼・標津の記述分析事例に準じ、幅広い地域事象を考察対象とする。

2. 稚内市の人口・気候・交通・産業

近代以降の稚内市は間違いなく漁業者の大都市僻遠集積地で、国勢調査報告によれば、直近2015年の時点でもその漁業者数は最盛期よりかなり減少したが768人を数え、全就業者の4.54%を占め、全国平均の2.61%を上回っていた。平成27年国勢調査によれば、その昼間人口は2015年の時点でも夜間人口を上回り、都市中心性が比較的高い。文字通り、稚内市は日本最北の北海道宗谷地域の中心都市である。市内（図1）には国道40・238号線が走り、稚内駅を終点とするJR宗谷本線が運行本数は少ないものの札幌方面と稚内を結び、稚内駅近くの稚内港からは利尻島・礼文等への航路と樺太への国際航路が整備されている。稚内市の最北端である宗谷岬と北西端の野寒布岬の間の声問地区東海岸寄りには稚内

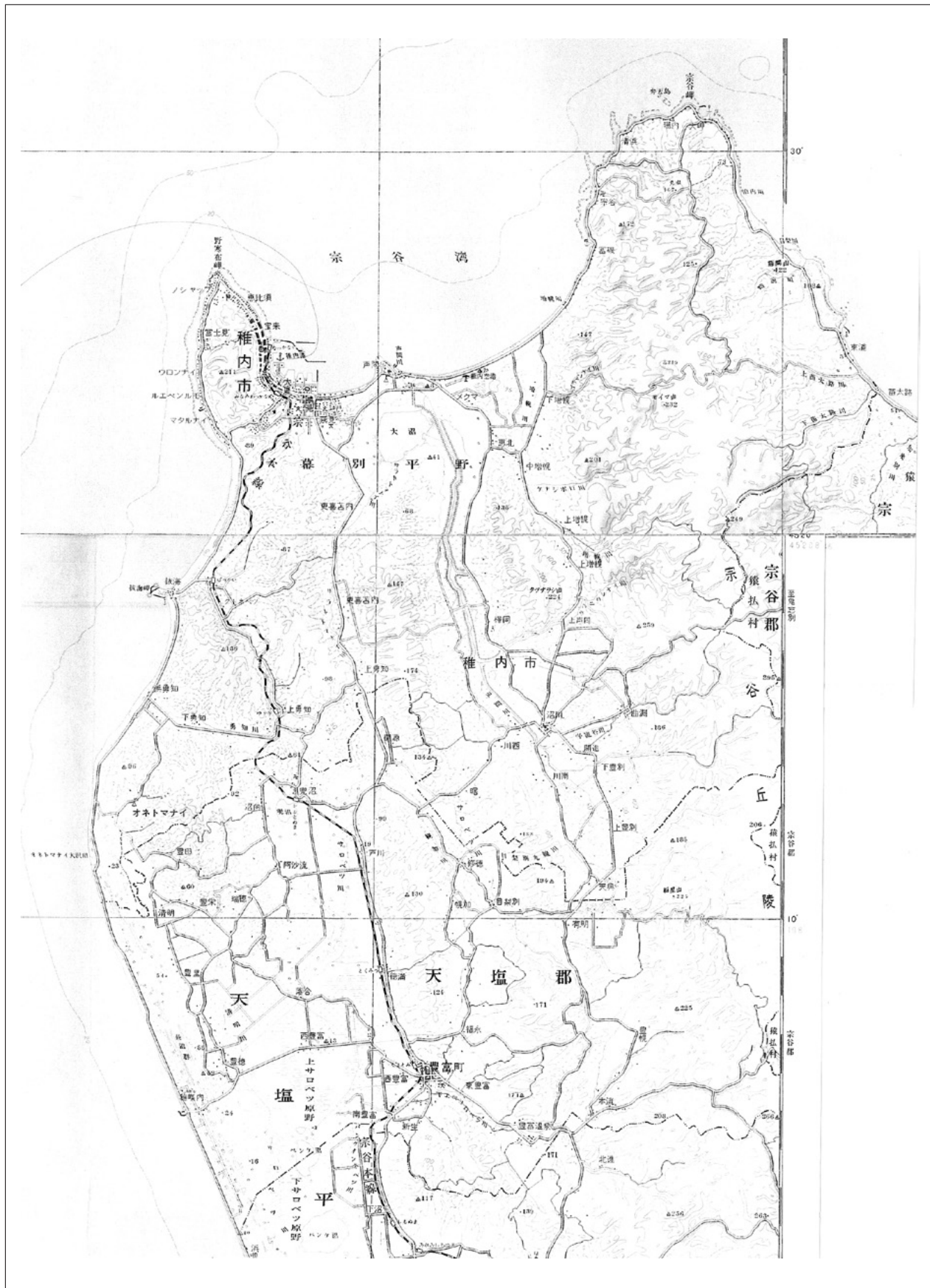


図1 研究対象地域（稚内市）（2018年）
 （国土地理院 20 万分の 1 地勢図「稚内」平成 15 年修正版・「天塩」平成 13 年修正版を 86%縮小採録）

空港があり、2019年現在も1日1往復の東京便と4往復の札幌便の旅客機が就航している。

稚内市役所ホームページ（2019年12月14日）によれば、2019年11月末現在、稚内市の総人口は33,636、世帯が17,757を数える。市域面積が約761.5平方キロメートルなので、稚内市1平方キロメートルあたりの人口密度は約44人、日本全体の約340人（平成29年値、『日本の統計2019』による）の約8分の1である。『理科年表2020』によれば、稚内市の年平均気温は7℃弱、日最低気温の月別平年値（1981～2010年）は1月が最低で-14℃弱、日最高気温の月別平均値は8月が最高で22℃強であり、日本の中では人口希薄な冷涼地域といえる。夏でも比較的冷涼なため、日本列島猛暑の2018年には、北海道以南からの夏季長期避暑客が稚内市では増えたとの街の声も聞かれた。

現在の稚内市の中心産業は、水産業・酪農業・観光業とその関連産業である。本論考ではその水産業以外の中心産業による「空間商品化」にも言及し、稚内市における水産業の相対的重要性を考察する一助とする。

II. 稚内水産業の推移と空間商品化

1. 水産業の推移

1) 稚内水産業の全盛期

稚内市の総人口は、国勢調査開始の1920年以来、就業者数とともにずっと増加してきたが、1980年代には減少し始め、漁業者数の増減と相関する。その稚内漁業の全盛期は、漁業専管水域設定が世界的に本格化する直前、1976（昭和51）年までである。

「稚内市統計書平成30年版」によれば、稚内市にお

る1976年の水産物総水揚高は539,957トン、31,803,647千円であり、量的にも金額的にも現在でも史上最高である。この当時、沖合底曳網漁業が全量の9割以上を占め、全金額の6割以上を占めていた（表1）。これに次ぐ漁業はイカ釣漁業（全金額の10%弱）とニシン刺網漁業（全金額の約8%）とコンブ漁業（全金額の6%弱）であった。また、魚種別水揚高（表2）は、数量的にはスケトウダラ、ホッケ、イカナゴ、ニシン、カレイ類、イカ類、マダラ、カニ類、コンブ、タコ類が上位10位を占め、金額的にはスケトウダラ、イカナゴ、ニシン、イカ類、ホッケ、コンブ、マダラ、カレイ類、カニ類、タコ類が上位10位を占める重要魚種であった。

1976年の稚内市における水産加工品生産高は公表されていない。同年に近い1978年における稚内市の水産加工生産高（表3-1）は総量21.6万トンで、そのうち、冷凍魚が16.6万トンと最も多く、宗谷支庁全体の88.4%を占めていた。それに続く飼肥料が4.1万トン（宗谷支庁全体の98.8%、以下同様）、魚油が0.5万トン（99.6%）、塩蔵品が1,422トン（39.4%）、素干し品が1,359トン（64.2%）、その他加工品（調味加工品など）が801トン（90.2%）、冷凍食品が579トン（100%）、練り製品が313トン（92.3%）の生産量であった。多くの品目が宗谷支庁の中で稚内市を中心としていたことが分かる。この稚内市の宗谷支庁における生産量比率を1976年に当てはめたのが表3-2で、イカナゴすり身、すけとうすり身と、魚粉を含む飼肥料が1万トンを超え、魚油と冷凍カレイ類は1万トンに近く、素干し品と塩蔵品とその他加工品は1,000トン以上、冷凍食品と練り製品と燻製品は100トン以上の生産量であったことが推測される。

表1 稚内市における水産物の主要漁業種類別水揚高（1976・2017・2018年；数量：トン，金額：千円）

魚種 \ 年次	1976(昭和51)年		2017(平成29)年		2018(平成30)年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
沖合底曳網漁業	499818	19921295	13288	1610029	24036	2201938
いか釣漁業	7271	3170171	2608	1549534	1747	1195818
にしん刺網漁業	12012	2575637	78	4023	29	1926
こんぶ漁業	1969	1859965	260	769658	277	810727
たこ漁業	1638	747348	2205	1068402	3467	2116098
遠洋底曳網漁業	5021	229910	-	-	-	-
うに漁業	35	190797	20	109851	19	128322
その他刺網漁業	988	159459	20	13448	110	16940
かれい刺網漁業	704	150968	50	12010	38	12366
ほっきがい等桁曳網漁業	195	55939	94	41242	73	27854
さけ定置網漁業	35	31981	1768	1518868	1385	830701
ほたてがい桁曳網漁業	74	17360	26804	5578533	47723	7512564
かに固定式刺網漁業	21	15435	244	702355	130	405021
けがに籠網漁業	10	9676	90	308295	86	352993
なまこ桁曳網漁業	49	7836	346	1560287	378	1795425
ほたてがい養殖漁業	-	-	948	267300	982	271350
その他の漁業	10117	2659870	118	222067	206	260271
総計	539957	31803647	49134	15407781	80686	17940314

2017・2018年のいか釣漁業とにしん刺網漁業の値は魚種別水揚量から推定。（稚内市役所水産商工課「令和元年稚内の水産」と稚内市役所総務防災課「稚内市統計書平成30年版」より作成）

表2 稚内市における水産物の主要魚種別水揚高（1976・2017・2018年；数量：トン，金額：千円）

魚種 \ 年次	1976(昭和51)年		2017(平成29)年		2018(平成30)年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
魚類小計	524158	31803647	15297	3188994	25662	3086851
スケトウダラ	262436	8569947	2886	244150	5124	271191
ホッケ	103335	2643180	3516	636035	7188	701626
イカナゴ	94762	4607507	3296	173787	6769	273185
ニシン	22756	4402292	78	4023	29	1926
カレイ類	9904	1218439	677	112353	681	84324
マダラ	5525	1287052	1729	267058	3152	593973
サメ類	1792	94633	1	3	0	0
コマイ	604	45534	25	1519	44	4203
サケ・マス類	55	44410	1667	1492413	1308	780938
その他魚類	22989	8890653	1422	257653	1368	375485
水産動物小計	13561	5402019	5545	5443476	5847	6131914
イカ類	7275	3173180	2608	1549534	1747	1195818
カニ類	4186	1017301	347	1096123	204	802556
タコ類	1840	783507	2214	1072317	3484	2124642
エビ類	187	229222	3	4885	3	6683
ナマコ類	37	7836	352	1597090	389	1860636
ウニ類	35	190797	21	123520	20	141579
貝類小計	269	73299	27071	5926643	48895	7853088
ホタテガイ	74	17360	26809	5581306	47735	7518099
ホタテガイ稚貝	-	-	947	267300	982	271350
ホッキガイ	68	34293	97	40207	84	32070
ツブガイ	-	-	123	37779	94	31394
海藻類小計	1969	1866932	268	792741	285	827935
コンブ類(乾燥)	1853	1812234	259	770643	277	810727
その他海藻類	116	54698	9	22098	8	17208
総計	539957	31803647	49134	15407781	80753	17982047

(稚内市役所水産商工課「令和元年稚内の水産」と稚内市役所総務防災課「稚内市統計書平成30年版」より作成)

表3-1 宗谷支庁及び稚内市における品目別水産加工生産量（1978年；トン）

品目	生産量	宗谷支庁	稚内市	(稚内市%)
素干し	合計	2118	1359	64.2
塩干	合計	16	0	0
煮干し	合計	196	4	2
燻製	合計	455	123	27
塩蔵	合計	3609	1422	39.4
煉り製品	合計	339	313	92.3
その他加工	合計	888	801	90.2
冷凍食品	合計	579	579	100
魚油	合計	4891	4872	99.6
飼肥料	合計	41529	41041	98.8
魚粉	合計	15047	15047	100
冷凍魚	合計	187625	165831	88.4
カレイ類	合計	17520	13751	78.5
ホッケ	合計	29982	(NODATA)	(NODATA)
イカナゴ	合計	30950	30067	97.1
その他魚類	合計	31417	(NODATA)	(NODATA)
すけとうすり身	合計	51190	51190	100
総計	合計	242245	216345	89.3

節類水産加工品の生産量は宗谷支庁全体でもトンである。
 (「昭和53年水産物流通統計年報」により作成)

稚内水産業が全盛期ほどではなかった1984（昭和59）年（日本漁業の量的最盛年）であっても、寒流系魚種または寒暖両流系魚種の大量水揚地である稚内港が全国8位（217千トン）、浅海（養殖）系魚種の主要水揚地である宗谷港が全国122位（11千トン）の水揚げを記録した（篠原，1992）。また，1984年の日本沿海では，稚内市は稚内港と宗谷港を併せて，日本海漁業とオホーツク海漁業の境界域に位置する重要水揚地と言える。さらに，水揚げが減少した2003年でも，稚内港は北海道を

表3-2 宗谷支庁及び稚内市における品目別水産加工生産量（1976年；トン）

品目	生産量	宗谷支庁	(稚内市%)	稚内市推定
素干し	合計	2005	64.2	1287
塩干	合計	88	0	0
煮干し	合計	152	2	3
燻製	合計	435	27	117
塩蔵	合計	3291	39.4	1297
煉り製品	合計	424	92.3	391
その他加工	合計	1287	90.2	1161
冷凍食	合計	682	100	682
魚油	合計	9906	99.6	9866
飼肥料	合計	68268	98.8	67449
魚粉	合計	21765	100	21765
冷凍	合計	299402	88.4	264671
カレイ類	合計	9350	78.5	7340
ホッケ	合計	42779	(NODATA)	(NODATA)
イカナゴ	合計	108188	97.1	105051
その他魚類	合計	18096	(NODATA)	(NODATA)
すけとうすり身	合計	78632	100	78632
総計	合計	385940	89.9	346924

節類水産加工品の生産量は宗谷支庁全体でもトンである。
 (稚内市%)は1978年の宗谷支庁における稚内市生産量の%である。
 (稚内市%)の総計値は、稚内市推定総計値を宗谷支庁総計値で除した値で、1978年の総計%とは若干数値が異なる。
 (「昭和51年水産物流通統計年報」により作成)

代表する「底生系水産物水揚げ」漁港であり，北海道における日本海漁業の重要根拠地・水揚地であった（篠原，2008）。

2) 激減した水産物の水揚げ

最盛期であった1976年の翌年，稚内市における水産物水揚量は半減に近く激減した。稚内市における直近の2017年と2018年の総水揚高は，約49千トンと約81千トン，約154億円と約180億円で，全盛期の数量で10%以下と15%以下，金額でも半分以下と60%以下と

なった(表1・2)。

漁業種類別に1976年と2017・2018年の水揚げ差異をみる(表1)と、沖合底曳網漁業が激減(数量は5%以下、金額は12%以下)し、遠洋底曳網漁業は消滅し、いか釣り漁業も減少し、伝統のニシン刺網漁業とコンブ漁業もその他の漁業も激減した。水揚げが増加したのはたこ漁業、さけ定置網漁業、ほたてがい桁曳網漁業(栽培漁業)、かに固定式刺網漁業、けがに籠網漁業、なまこ桁曳網漁業、ほたてがい養殖漁業である。従来からの漁業種類の多様性を失い、遠洋・沖合漁業のほとんどが激減し、沿岸での漁業と栽培・養殖業に重きを置く水産業地になったと言える。

魚種別に変化をみる(表2)と、スケトウダラ・ホッケ・イカナゴ・ニシン・マダラ等の魚類の水揚げが激減し、イカ類・エビ類の水産動物類とコンブ類の海藻類の水揚げも減少した。最も水揚げが増えたホタテガイは数量で全体の半分以上、金額で全体の3分の1~4割以上を占める。ホタテガイと同様に水揚げが激増したのはナマコ類で、サケ・マス類とミズダコを中心とするタコ類の水揚量・金額も増加し、カニ類は水揚量が減ったが単価が増加した。水産動物類の水揚げは、貝類水揚げと並んで全体の3分の1以上を占める。魚種別にみても、稚内市の水産業が沿岸中心になったことが分かる。

上記の漁船水揚げの他、重要港湾の稚内港には水産物の輸出入がある(表4)。2013~2018年の統計値を見る限りでは、近年の稚内港における水産物輸出入は縮小傾向にある。

稚内港における水産物輸入金額はここ数年で5分の1に縮小し、2017年以外は水産物が稚内輸入貿易の9割

以上を占めていた。輸入水産物の魚種を見ると、活カニ類が多かったのが減少し、全体の縮小の中でその他の魚介類が上回るようになった。輸出水産物金額もここ数年で30分の1に縮小した。水産物の輸出入先は、『稚内市統計書』では不明だが、輸出入全体の傾向からほとんどがロシアと考えられる。

稚内市における直近の水産加工業統計は残念ながら全数把握できず、稚内市調査対象事業所数で5割以上6割以下の数値しか利用できない。その水産加工業統計(表5)によるならば、直近の水産加工業従業者数はあまり変わらず、製品区分によっては常勤ではない臨時従業者への依存の高さも目立つが、統計値としては2018年のみながら外国人研修生(すべて常勤)への依存度の高さも眼を引く。また、2018年の総出荷額約140.4億円のうちほぼ7割の97.5億円をほっけ・すけとうだら・さけ・ほたて玉冷などの冷凍水産物が占め、次いで、棒たら・干(ほたて)貝柱・一夜干し魚・干しなまこなど乾製品が20.6億円、たらこなど魚卵製品やでんぶなど調味加工品が8.1億円、塩蔵なまこ・煮だこ・ボイルかになど一般加工品が7.9億円生産された。2017年値は調味加工品と一般加工品がより多かったが、冷凍水産物の多さは変わらない。全体量を安易には推測できないが、稚内市水産加工業における冷凍水産物の重要性と近海魚類・貝類・水産動物類が主要な原料になっている点は間違いのないと言える。さらに、6割未満の補足率ながら、稚内市における水産加工業出荷金額が市域全体の水産物水揚金額より20~30億円少ない程度であるのは、実際には現在の稚内市では、水産加工業が漁業あるいは漁獲物水揚げよりも金額的にも経済性の点でもより重要であること

表4 稚内港における水産物輸出入高(2013~2018年;数量:トン,金額:百万円)

魚種 \ 年次	2013(平成25)年		2014(平成26)年		2015(平成27)年		2016(平成28)年		2017(平成29)年		2018(平成30)年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
輸入総計	—	5069.1	—	5541.4	—	1868.4	—	1638.6	—	3599.6	—	974.9
活力二類	6026.9	4647.8	4600.1	5078.9	827.1	1317.4	531.0	876.7	245.9	298.4	227.2	395.3
冷凍魚	—	—	14.0	27.0	16.9	36.5	83.4	106.5	27.7	66.8	—	—
その他魚介類	20.2	42.4	553.4	427.6	622.3	490.1	638.8	557.8	634.1	611.5	536.5	492.9
水産物(%)	—	92.5%	—	99.9%	—	98.7%	—	94.0%	—	27.1%	—	91.1%
輸出総計	—	1651.9	—	1156.2	—	611.3	—	583.2	—	353.3	—	102.1
魚介類	962.2	785.5	886.1	302.9	393.4	384.8	130.8	27.7	414.8	211.7	74.5	26.2
水産物(%)	—	47.6%	—	26.2%	—	62.9%	—	4.7%	—	59.9%	—	25.7%

(稚内市役所総務防災課「稚内市統計書平成29年版・平成30年版」より作成;平成30年値は確報値;それ以前年次値は確定値)

表5 稚内市における製品区分別水産加工品出荷金額(2017・2018年;百万円)

製品区分	2018(平成30)年末				2017(平成29)年末			
	事業所数	従業員数	出荷金額	(全体%)	事業所数	従業員数	出荷金額	(全体%)
冷凍水産物	13	584(172)<59>	9747.9	69.4	11	488<187>	7767.3	57.0
乾製品	5	122(23)<4>	2055.8	14.6	6	165<39>	1988.0	14.6
調味加工品	2	83(15)<8>	814.1	5.8	4	141<48>	1988.0	14.6
一般加工品	6	63(4)<13>	790.5	5.6	5	54<27>	1248.7	9.2
前処理	5	102(4)<54>	427.2	3.0	6	113<94>	331.4	2.4
すり身	1	16(1)<2>	203.9	1.5	1	15<1>	300.0	2.2
総計	58	973(219)<140>	14039.4	—	59	976<396>	13623.4	—

事業所数は各製品区分生産を主とする回答数で、その全事業所数比は2018年末が約55%、2017年末が約56%であった。従業員数<>内の数字は臨時員数、2018年末数()内の数字は外国人研修生数である。(「稚内の水産令和元年版・平成30年版」により作成。)

を示唆する。

以上のような時代変化はあったが、稚内水産業の生産基盤が稚内近海（沿岸と沖合）と市内の多様な水産加工地域にあり続けていたことは不変である。

2. 水産業を中心とする商品化空間

1) 港湾と漁港

稚内市における主要な水産関連施設・機関・団体（表6）は各地に所在するが、稚内港とその周辺に特に集中する。宗谷港と他の漁港も各地域の水産業の中核である。稚内港は稚内湾の西岸、宗谷港は稚内湾の東すぐ外側、

宗谷岬の東隣に所在する。他の漁港はその名称集落の前に所在する。

港湾別あるいは漁港別の水揚高を明示した統計資料はないが、「平成28年稚内の水産」と『漁港港勢の概要平成27年』を照合し、2015年の港湾別漁港別水揚高を算出すると、稚内市水揚高第1位は宗谷港の17,255トン・4,092百万円で、稚内港の15,339トン・3,491百万円は第2位であった。次いで水揚金額が多いのは、東浦漁港の8,712トン・1,678百万円、声問漁港の636トン・610百万円、富磯漁港の1,405トン・549百万円、宗谷漁港の782トン・535百万円、恵山泊漁港の281トン・426

表6 稚内市における主要な水産関連施設・機関(豊富町沿岸含む;2018年)

番号	施設・機関名称	種類	所在地区
1	稚内港	重要港湾	開運・中央・港・新港町・末広・新末広町
2	稚内港北船溜	重要港湾	恵美須
3	宗谷港	地方港湾	宗谷岬(大岬)
4	東浦漁港	第4種漁港	東浦
5	宗谷漁港(珊内地区)	第1種漁港	珊内
6	宗谷漁港(清浜地区)	第1種漁港	清浜
7	宗谷漁港(宗谷地区)	第1種漁港	宗谷
8	富磯漁港	第2種漁港	富磯
9	声問漁港	第1種漁港	声問
10	恵山泊漁港	第2種漁港	ノシャップ
11	西稚内漁港	第1種漁港	西浜
12	抜海漁港	第4種漁港	抜海
13	稚咲内漁港	第1種漁港	稚咲内[豊富町;稚内漁協所轄]
14	稚内市地方卸売市場	地方卸売市場	新港町
15	稚内漁業協同組合地方卸売市場	地方卸売市場	中央
16	稚内機船漁業協同組合	水産業協同組合	新港町
17	稚内漁業協同組合	水産業協同組合	中央
18	稚内漁業協同組合声問支所	水産業協同組合	声問
19	稚内漁業協同組合豊富支所	水産業協同組合	稚咲内(番号13と同じ)
20	宗谷漁業協同組合	水産業協同組合	宗谷
21	宗谷漁業協同組合宗谷岬支所	水産業協同組合	宗谷岬(大岬)
22	宗谷漁業協同組合東浦支所	水産業協同組合	東浦
23	稚内地区水産加工業協同組合	水産業協同組合	新港町(番号14と同じ)
24	稚内水産廃棄物処理協同組合	水産業協同組合	声問
25	稚内水産物残滓処理協同組合	水産業協同組合	サラキトマナイ
26	稚内市地方卸売市場買受人組合	水産関係団体	新港町(番号21内)
27	稚内機船漁業協同組合加工センター	水産関係団体	新港町
28	北海道漁業協同組合連合会稚内支店	水産関係団体	中央(水産ビル)
29	北海道信用漁業協同組合連合会稚内支店	水産関係団体	中央(水産ビル)
30	北海道漁業共済組合北海道事務所稚内支所	水産関係団体	中央(水産ビル)
31	日本漁船保険組合宗谷支所	水産関係団体	中央(水産ビル)
32	北海道水産物検査協会稚内検査事務所	水産関係団体	中央
33	日本水難救済会稚内救難所	水産関係団体	中央(番号15内)
34	日本水難救済会宗谷救難所	水産関係団体	宗谷(番号18内)
35	全日本海員組合道北支部	水産関係団体	中央
36	稚内海員会館	水産関係団体	大黒
37	稚内市役所(水産商工課)	水産関係公官庁	中央
38	稚内海上保安部	水産関係公官庁	開運(港湾合同庁舎)
39	稚内地方気象台	水産関係公官庁	開運(港湾合同庁舎)
40	北海道運輸局旭川運輸支局稚内庁舎	水産関係公官庁	開運(港湾合同庁舎)
41	札幌入国管理局稚内港出張所	水産関係公官庁	開運(港湾合同庁舎)
42	小樽検疫所稚内出張所	水産関係公官庁	開運(港湾合同庁舎)
43	稚内税関支署	水産関係公官庁	末広(稚内地方合同庁舎)
44	農林水産省稚内統計・情報センター	水産関係公官庁	末広(稚内地方合同庁舎)
45	稚内開発建設部	水産関係公官庁	末広(稚内地方合同庁舎)
46	稚内開発建設部稚内港湾事務所	水産関係公官庁	末広
47	宗谷総合振興局	水産関係公官庁	末広(宗谷合同庁舎)
48	宗谷地区水産技術普及指導所	水産関係公官庁	末広(宗谷合同庁舎)
49	宗谷海区漁業調整委員会	水産関係公官庁	末広(宗谷合同庁舎)
50	宗谷総合振興局稚内建設管理部	水産関係公官庁	末広(宗谷合同庁舎)
51	宗谷総合振興局稚内建設管理部事業課	水産関係公官庁	声問
52	稚内水産試験場	水産関係公官庁	末広

(「平成30年稚内の水産」と現地調査により作成)

百万円、抜海漁港の295トン・242百万円、稚咲内漁港の296トン・128百万円、西稚内漁港の140トン・125百万円の順であった。稚咲内漁港は豊富町沿岸に所在するが、稚内漁業協同組合豊富支所が置かれている。

2) 港湾・漁港を中心とする空間商品化

稚内港（重要港湾）とその周辺では、稚内市地方卸売市場（稚内機船漁業協同組合が経営）のある北洋埠頭を含む第一副港地区（写真1）に沖合底曳網漁船の漁獲物が水揚げされ、稚内漁業協同組合地方卸売市場のある第二副港地区（写真2）にイカ類のほか沿岸漁獲物が水揚げされる。この地区は、漁業・水産加工業とその関連業者の稚内市最大の集積地域である（表6）。この関連業者には水産物流通・運送業者、外来者への水産物卸小売業者、漁業者系統組織およびサービス組織も含まれる。特に、第一副港地区には底曳網漁業最盛期を想起させる「稚内副港市場」など水産関連商業・サービス業施設が複数あり、多くの観光客を集める。稚内港の周辺にはトイレを備えた緑地・公園も複数存在する。野寒布半島東岸中部には稚内港北船溜（写真3）があり、その周辺には水産加工場とコンブ干し場が数多くみられる。また、



(写真1) 稚内港第1副港における沖合底曳網漁船群 (2017年3月20日；著者撮影)



(写真2) 稚内港第2副港におけるイカ釣り漁船群 (2019年10月22日；著者撮影)



(写真3) 稚内港北船泊における停泊漁船群 (2019年10月24日；著者撮影)



(写真4) 宗谷岬公園 (2019年10月21日；著者撮影)

稚内港を見下ろす丘陵地上には「稚内公園」があり、景観・歴史観光の中心となっている。直近ではすでに宗谷港の水揚げが稚内港を上回るにもかかわらず、稚内港とその周辺が稚内市水産空間商品化の中心であるのは、稚内地区における漁業の歴史的経緯と人・物・情報を集めやすい都市中心性の高さによる。

稚内市でおそらく最も知名度の高い観光地は、宗谷岬公園（写真4）である。その宗谷岬の南東隣に宗谷港（地方港湾）（写真5・6）がある。宗谷港は宗谷漁業協同組合宗谷岬支所の所在地であり、現在では稚内市最大の水揚地である。宗谷港の主要水揚げ魚種はホタテガイ、タコ類、サケ・マス類、ナマコ、カニ類等である。宗谷港の東南に位置する第4種漁港の東浦漁港（写真7）は宗谷港と稚内港に次ぐ水産物大量水揚地で、2港湾とともに現在の稚内市水産業を支える中核漁港である。宗谷港にはトイレを備えた緑地公園（「てっぺん公園」）や防波堤（「てっぺんドーム」）があって、そこを起点とするフットパスが西隣の宗谷岬と宗谷丘陵に伸びており、宗谷港とその周辺は水産・観光商品化空間と言い得る。対して、東浦漁港はホタテガイとサケ・マス類が多く水揚げ（2015年には8,009トンと541トン）され、トイレを



(写真5)宗谷岬公園から東北東に宗谷港を望む(2019年10月21日；著者撮影)



(写真8)宗谷漁港(宗谷地区)とその周辺(2019年10月22日；著者撮影)



(写真6)宗谷港におけるホタテガイ水揚げ(2019年10月21日；著者撮影)



(写真9)富磯漁港(2018年8月31日；著者撮影)



(写真7)東浦漁港(2018年8月31日；著者撮影)

備えた緑地(公園)があるが、周辺に注目される集客施設・観光地はなく、純粋な水産商品化空間の中心である。

宗谷漁港(写真8)および富磯漁港(写真9)とその周辺地域は、コンブ干し場の目立つ水産商品化空間である。宗谷漁港は珊内・清浜・宗谷の3か所に分かれ、清浜にはトイレを備えた緑地広場もある。宗谷漁港全体の2015年魚種別水揚量はタコ類355トン、サケ・マス類260トン、コンブ96トン、ナマコ41トン、モズク20

トンの順に多かった。富磯漁港の2015年魚種別水揚量は、ホタテガイ1,109トン、コンブ151トン、タコ類91トン、ナマコ45トン、モズク5トンの順に多く、稚内市ではホタテガイ栽培漁業の最西端主要水揚地である。この地区は水産商品化空間の性格が強いが、珊内あるいは宗谷の集落は宗谷地方あるいは稚内の発祥地である。この意味でこの地区は歴史的商品化空間の性格も有する。宗谷岬から宗谷・富磯地区にかけて、その沿海部は広い浅瀬が広がってその外海よりも波静かで、和船の時代には集落形成しやすい地域であったとも推量される。宗谷漁業協同組合本所と稚内市役所宗谷支所は宗谷集落にある。

声問漁港(写真10)には稚内漁業協同組合声問支所(旧声問漁業協同組合)があり、周辺にはコンブ干し場(写真11)が目立つ。声問漁港の2015年魚種別水揚量は、コンブ305トン、サケ・マス類139トン、ナマコ67トン、カニ類40トン、タコ類27トンの順に多い。この地区はコンブ採取業とサケ定置網漁業と水産物採取業の漁業地である。沿海部は東浦地区と同様、純粋の水産商品化空間であるが、より内陸には稚内市でも有数の集客施設があり、運行頻度が1時間1本以上の市内バス路線網もこ

稚内市における水産業を中心とする空間商品化の地域性



(写真10)声間漁港(2019年8月27日；著者撮影)



(写真13)ノシャップ岬(恵山泊漁港公園) (2019年10月24日；著者撮影)



(写真11)声間集落におけるコンブ干し場事例(2018年8月27日；著者撮影)



(写真14)稚内市西海岸のタラ干し場(2018年3月8日；著者撮影)



(写真12)恵山泊漁港(2019年10月23日；著者撮影)

こまで伸びている。

恵山泊漁港(写真12)はノシャップ岬に所在し、周辺にはコンブ干し場が目立つ。恵山泊漁港の2015年魚種別水揚量は、カニ類95トン、コンブ70トン、ナマコ32トン、ヒラメ・カレイ類31トン、エイ類25トンの順に多い。いわゆる観光地「ノシャップ岬」は恵山岬漁港公園(写真13)であり、この周辺地域は水産商品化空間であると同時に、外来者観光を許容する空間となっ

ている。

恵山泊漁港より南の半島西岸には、道路沿いにタラ干し場(写真14)もみられ、強風の頻繁な地域である。どの漁港もサケ・マス類の水揚げが最も多い。西稚内漁港(写真15)の2015年魚種別水揚量は、サケ・マス類70トン、コンブ44トン、ナマコ17トン、タコ類4トン、ブリ4トンの順に多いが、周辺は純粋な水産商品化空間である。抜海漁港の2015年魚種別水揚量は、サケ・マス類168トン、コンブ31トン、ウバガイ(ホッキ貝)30トン、ナマコ29トン、タコ類28トンの順に多い。抜海漁港(写真16)にはかつてゴマフアザラシが集まったことがあるが、現在、漁港内の観察所は休止中である。漁港近くに貴重なオホーツク文化遺跡「抜海岩陰遺跡」(写真17)があり、周辺は利尻サロベツ国立公園であるが、稚内市路線バスが運行しない地域であり、この地区に観光客が訪れることは少なく、抜海漁港を中心に水産商品化空間が形成されている。豊富町沿海にある稚咲内漁港(写真18)は、近隣の観光案内・休憩所が休止中であり、ほぼ純粋な水産商品化空間の中心である。稚咲内漁港の2015年魚種別水揚量は、サケ・マス類220トン、



(写真15)西稚内漁港(2018年8月29日；著者撮影)



(写真17)抜海岩陰遺跡(2018年8月29日；著者撮影)



(写真16)抜海漁港(2018年8月29日；著者撮影)



(写真18)稚咲内漁港(2018年9月24日；著者撮影)

ウバガイ 33 トン、タコ類 29 トン、エイ 13 トンの順に多い。

Ⅲ. 「稚内」空間商品化の地域性と未来性

1. 外来者に向けての空間商品化

稚内市民による外来者に向けての空間商品化で最も包括的なものは「稚内ブランド」(表7)である。これは稚内市において特徴ある商品・遺産・文化を外来者も意識して作り上げた地域包括ブランドである。外来者に向けてのみならず、旧来の商品移出に関わる空間商品化でもあり、農牧業・商工業による空間商品化であり、地域イメージをも通じて、「稚内」生活への地元住民による再確認の意味も持つ。「稚内ブランド」の一覧を一見すればすぐに分かるように、さまざまな要素が盛り込まれていると同時に、水産加工品の比重の高さ、重要性は明らかである。また、「稚内ブランド」の生産地が稚内市街地ばかりではなく、稚内市全域にわたっていることも注目される。稚内市の各種製造業者、生活者全般が「稚内ブランド」の担い手になっている。

外来者の直接体験に関わる空間商品化は、市内の主要

な集客施設・園地(表8)を通じて実現される。これは観光業などが関わる部分である。稚内市の主要な集客施設・園地は各地に所在するが、内陸にも多い自然観光地を除けば、水産関連地域にその多くがみられる。また、多くの宿泊施設は稚内港に近接する稚内駅あるいは南稚内駅の周辺か、宗谷岬周辺かノシャップ岬周辺か稚内温泉付近に所在する。すなわち、水産景観は外来者のすぐ近くにあることが多い。

稚内市の主な公園・記念碑は、開拓初期(特に宗谷地区)あるいは樺太およびロシア関連(特に稚内地区)のものも多く、1945年以前と現在の稚内の街の歴史を反映している。自然観光地は内陸を中心に水産業や酪農業で利用していない地域に展開していることが多く、寒冷地ゆえの特徴的な周水河地形などを見学できる。

2. 外来者・外在者による空間商品化

稚内現地における外来者への空間商品化は、地場の水産業や酪農業、開拓初期や1945年以前の歴史、ロシアや樺太が関連することが多かったが、外来者・外在者によって空間商品化された「稚内」は、現実のごく一部のみを抽象化して取り上げていることが多い。

稚内市における水産業を中心とする空間商品化の地域性

外来者の間接体験に関わる空間商品化、あるいは外来者・在外者による空間商品化は、「物語」による仮想空間的な空間商品化である。具体的には映像・仮想・非日常空間の背景・舞台として、稚内がどう描かれているかをみれば良い。

稚内市は明治時代以降、数多くの文学作品、映像作品に描かれた地域であり、他地の代わりに「ロケ」された地域である。ごく簡単にその傾向を言うならば、特にフィクションに登場する「稚内」は、日本「最北」の地であり、近年の映画作品『冬の桜守』『北のカナリアたち』やかつてのテレビドラマ『少女に何が起こったか』（第1話）でも繰り返されたように、「寒さ」「寂しさ」「厳しさ」のイメージが基本的である。現在の現実の稚内市

観光客数は冬季よりも夏季が多く、道内からよりも道外からの観光客の方が多岐にもかかわらず、外来者による空間商品化では夏季よりも冬季のイメージが強い。ただし、一部の漫画・劇画、たとえば『ハチミツとクローバー』第7巻や『サイクル野郎』第10巻では、「日本最北端」としての扱いながらおそらく夏季の稚内が登場し、爽やかな日差しや風が描かれ、「ドン詰まり」というより「突き抜けた」爽やかなイメージで「稚内」が提示されていた。あえて言うならば、いずれにしても、多様な四季折々の「稚内」が外来者・在外者による空間商品化に反映しているとはいいがたい。「現実には厳しい」のだろうが、地元の水産業や酪農業が爽やかなイメージでよく語られてもいない。すなわち、現実の「稚内」の地域的魅力が

表7 「稚内ブランド」認定事物一覧（2018年）

番号	事物名称	事物種類	関係団体・地域	季節性と原料等
1	宗谷のたこ	水産物	宗谷漁業協同組合	周年(流水季除く)
2	宗谷のほたて貝	水産物	宗谷漁業協同組合	春夏秋季
3	宗谷のもずく	水産物	宗谷漁業協同組合	9月
4	稚内のほっけ	水産物	稚内機船漁業協同組合	周年(特に夏秋季)
5	稚内銀杏草	水産物	稚内漁業協同組合	1～3月
6	宗谷黒牛	畜産物	株式会社宗谷岬牧場	周年
7	稚内牛乳	酪製品	稚内農業協同組合	周年
8	勇知いも	農産物	わっかない勇知いも研究会	周年(特に春季)
9	鮭とぼ	水産加工品	株式会社うるご市	周年;海獲れのオス秋鮭使用
10	ほたて丸	水産加工品	株式会社そうべい	周年;宗谷産天然ほたてヒモ使用
11	ほたてみみ	水産加工品	大東食品株式会社	周年;独自手法でほたてのひもを伸ばして乾燥
12	ほっけくんせいスティック	水産加工品	大東食品株式会社	周年;稚内産ほっけ使用
13	ボンたら	水産加工品	大東食品株式会社	周年;すけとつたら使用
14	一夜干鮭ほっけ	水産加工品	中央水産株式会社	周年;稚内近海ほっけ使用
15	まるごと食べられる真ほっけ甘みそ漬	水産加工品	中央水産株式会社	周年;脂乗りよい時期の真ほっけ、北海道産味噌を使用
16	棒たら	水産加工品	株式会社丸北北海組	周年;北海道近海の真だらを使用
17	宗谷の塩	水産加工品	田上食品工業株式会社	周年;地元海洋水使用
18	特製三色飯寿司	水産系加工食品	有限会社本間水産	年末年始;稚内産鮭・たこ・宗八がれいを使用、40日間熟成
19	稚内ほたてシューマイ	水産系加工食品	有限会社ホクメンフーズ	周年;宗谷産ほたてと北海道産小麦・すり身・牛乳・玉葱を使用
20	さっちゃんの手造りグラタン(ほたて・かに)	水産系加工食品	有限会社ホクメンフーズ	周年;豊富牛乳使用
21	ほたて混ぜこみご飯の素	水産系加工食品	中央水産株式会社	周年;宗谷のほたて貝、利尻昆布、鰹節(稚内市の友好都市枕崎産)を使用
22	宗谷岬牧場のハンバーグ	畜産加工品	株式会社そうべい	周年;宗谷岬牧場の牛使用
23	鹿肉ジギスカン	畜産加工品	株式会社North innovation	周年;稚内産鹿肉使用
24	わっかない黒牛シチュー	畜産系加工食品	株式会社そうべい	周年;「宗谷黒牛」使用
25	ポテラナーワッカナイ	農産系加工食品	株式会社てっぺん	周年;「勇知いも」使用
26	ワッカナイポテマルコ	農産系加工食品	株式会社てっぺん	周年;「勇知いも」使用
27	白いカレーラーメン	農産系加工食品	有限会社ホクメンフーズ	周年;北海道産小麦使用、白いスープは北の雪国稚内をイメージ
28	稚内牛乳アイスクリーム	酪農加工品	稚内農業協同組合	周年;稚内産牛乳と道内産原料をできるだけ使用
29	稚内港北防波堤ドーム	地域資源	稚内港	「北海道遺産」指定の建築遺産、1936年完成
30	宗谷岬・宗谷丘陵	地域資源	宗谷岬地区	宗谷岬は日本最北端でサハリン(樺太)まで43km、宗谷丘陵は貴重な周水河地形
31	南中ソーラン	地域資源	稚内市立南中学校	1986年考案、1992年完成の舞踊で、ニシン漁の沖揚げ動作を取り入れた振り付けが特徴の正調ソーランをロック調にアレンジ
32	稚内層珪質頁岩(いわゆる稚内珪藻土)	地域資源	稚内市内	調湿機能を持つ自然素材で、コースターに加工されたり、図書館や高齢者住宅に使用されている

(稚内ブランド推進協議会「稚内ブランド2018」より作成)

表8 稚内市における主要な集客施設・園地（2018年）

番号	施設・園地名	種類	所在地区	概要
1	稚内港	交通・物流施設(重要港湾)	開運・中央・港・新港町・末広・新末広町	離島航路・サハリン航路あり
2	稚内駅	交通施設	中央	JR宗谷本線終点駅、日本最北端の駅
3	道の駅わっかない「キタカラ」	地域交流・商業施設	中央	稚内駅と一体化、観光案内所・食堂・土産物店・バスセンター・コンビニ・映画館・休憩スペース・コインロッカーなどあり
4	稚内空港	交通施設(空港)	声間	東京便・札幌便あり
5	宗谷岬公園(宗谷岬平和公園)	自然景観観光地	宗谷岬	日本最北端地の碑・間宮林蔵立像・宗谷岬音楽碑・公衆トイレ・駐車場・展望台休憩所・宗谷岬神社が岬低地にあり、台地上に宗谷岬灯台・旧海軍望楼・あけぼの像・食堂(季節営業、ほたてラーメン等)・宮沢賢治文学碑・ラ・ペルーズの碑・戦没者慰霊碑・平和の碑・祈りの塔・世界平和の鐘・子育て平和の鐘・宗谷丘陵展望休憩施設(ゲストハウスアルメリア)などあり
6	宗谷丘陵	自然景観観光地	宗谷村	周水河地形(北海道遺産)
7	宗谷丘陵フットパス	散策体験歩行路	宗谷岬・宗谷	ロングコース約11km(宗谷岬から宗谷集落)、ショートコース約5km(宗谷岬ウインドファームから宗谷集落)設定の散策路、冬季通行止め
8	宗谷てっぺんフットパス	散策体験歩行路	宗谷岬	宗谷岬から宗谷港てっぺん公園・てっぺんドームまでの散策路
9	間宮林蔵渡樺出港の地記念碑	歴史観光地	清浜	記念碑の横に駐車スペース、横に念法真教記念碑あり
10	宗谷公園(宗谷歴史公園)	歴史観光地	宗谷	宗谷厳島神社・児童用遊具・津軽藩兵詰合記念碑・旧藩士墓地・宗谷護国寺跡(北海道指定遺跡)などあり。隣接して現在の宗谷護国寺、近くに間宮林蔵顕彰碑、少し離れて津軽・会津・秋田藩陣屋地跡あり
11	稚内市発祥地石碑	歴史観光地	宗谷	宗谷会館(地区公民館)前にあり
12	宗谷三百年記念碑	歴史観光地	宗谷	宗谷漁業協同組合と稚内市役所宗谷支所の前にあり
13	ノースパレーカントリークラブ	体育施設(ゴルフ場)	増幌	稚内空港からは車で10分以内の立地、4~11月営業
14	メグマ沼自然公園	自然観光地	増幌・恵北・メクマ	沼・湿原・原生花園あり、近くに稚内CC(ゴルフ場)あり
15	稚内カントリークラブ	体育施設(ゴルフ場)	恵北	稚内空港に近接立地、4~11月営業
16	空港公園メグマ沼フットパス	散策体験歩行路	恵北・メクマ	稚内空港公園とメグマ沼湿原(木道)を往復する散策路、冬季通行止め
17	稚内市動物ふれあいランド	動物園	恵北	稚内空港公園に隣接、近くに「北の桜守パーク」
18	北の桜守パーク	文化施設(記念館)	恵北	映画「北の桜守」ロケ地記念館、冬期休業
19	大沼	自然観光地	声間・恵北・更喜苦内	春と秋に野鳥が数多く集まる、北の湖畔に観察施設「大沼バードハウス」あり
20	稚内市大沼球場	体育施設(野球場)	声間	冬季休業
21	道立宗谷ふれあい公園	研修・体験施設、複合レジャー公園	声間	オートキャンプ場・多目的広場・パークゴルフ場・野外児童遊具場・屋内遊技場・宿泊室・展望台・サハリン友好の森などあり、近くに稚内メガソーラー発電所・稚内大沼球場あり
22	声間公園	地区公園	声間	北麓の声間神社からの山道で上がって来れる、トイレ・展望台があり、東への道路は草荒地不通、車道は南麓から
23	松浦武四郎宿营地案内板	歴史観光地	声間	北海道名付け親とされる松浦武四郎宿营地の歴史案内板
24	稚内市若葉球技場	体育施設(野球場・球技場)	若葉台	市街地に近接、冬季休業
25	コルサコフ広場	記念公園	末広	記念碑とトイレ・花壇・国際時計・休憩スペースのある日露友好記念公園
26	天北緑地	地区公園	末広	運動・休憩スペースとトイレあり、近くに日露友好会館あり
27	末広緑地公園	地区公園	末広	運動・休憩スペースとトイレあり、隣接してレジャーボート置き場あり
28	稚内市こまどりスキー場	体育施設(スキー場)	こまどり	市街地に近接、冬季営業
29	稚内市こまどりパークゴルフ場	体育施設(パークゴルフ場)	こまどり	市街地に近接、冬期休業
30	稚内副港市場(「わっかない海の駅」)	観光複合施設	港	立地場所はかつての底曳網漁船水揚げ中心地で、「わっかない海の駅」指定、時にイベント開催もあり、「稚内天然温泉港のゆ」・港ギャラリー・副港市場(土産物品店も)・波止場横町(屋台村)・稚内市樺太記念館・各種飲食店・FMわっかないあり、冬季に臨時のサハリン館開設、波止場横町にはロシア料理店も
31	稚内地名発祥の地看板ヤムワッカナイ	歴史観光地	中央	真言寺境内の端、道路に面して所在
32	旧瀬戸邸	歴史観光地	中央	稚内の漁業の歴史を伝える登録有形文化財、大相撲横綱大鵬ゆかりの部屋・展示もある
33	稚内市総合文化センター	文化施設	中央	稚内市役所に隣接、稚内市立病院に近接、各種イベント随時開催
34	稚内市ポートサービスセンター(「わっかない海の駅」)	観光客・漁業者休憩施設	開運	休憩室・コインランドリー・シャワー室・多目的ホール・室内緑地(アトリウム)あり
35	稚内フェリーターミナル	交通施設	開運	離島(利尻島・礼文島)航路(国内旅客ターミナル)とサハリン航路(国際旅客ターミナル)あり、稚内空港との間をリムジンバスが運行
36	波止場プロムナード	散策路	開運	稚内駅から北防波堤ドームにかけての散策路
37	稚内市温水プール水夢館	体育施設	開運	市営温水プール

38	稚内中央公園	地区公園	中央	運動・休憩スペースや彫像・児童用遊具・トイレ・彫壁・野外ステージあり、東に隣接して北臨港北駐車場あり
39	稚内港北防波堤ドーム	歴史観光地	開運	稚泊航路記念碑も所在し、土木学会選奨土木遺産・北海道遺産にも指定され、目前には野外ステージ・イベント広場のあるドーム公園や交流広場(トイレあり)がある
40	しおさいプロムナード	散策路	開運	稚内港北防波堤ドームを含む北防波堤沿いの散策路
41	稚内公園フットパス	散策体験歩行路	中央・宝来・ヤムワッカナイ	JR稚内駅と稚内公園周辺をめぐる散策路、ショート・ミドル・ロングのコース設定、北門神社横から入る山間散策路は「氷雪の門」までは「短歌の道」(稚内公園散策路、各所にゆかりの短歌が刻まれた標柱あり)、冬季通行止め
42	稚内公園	複合観光公園	ヤムワッカナイ	「短歌の道」を上がりきった広場に「氷雪の門」「行幸啓記念碑」「九人の乙女の碑」「教学之碑(樺太師範学校同窓会)」「樺太犬供養塔」「南極観測樺太犬訓練記念碑」と芝庭園および稚内市休憩展望施設・観光物産展示即売案内所・トイレ・駐車場があり、稚内中心市街地を一望可能、少し離れて「遭難碑」(稚内旧制中学校)や足湯を楽しめる「ゲストハウス氷雪・新エネルギーサテライト」と稚内公園風力発電所があり、さらに坂道を上れば「稚内市開基百年記念塔・北方記念館」あるいは「稚内霊園墓地」「森林公園(キャンプ場)」にたどり着く。冬季来訪は困難。
43	稚内市開基百年記念塔・北方記念館	文化施設	ヤムワッカナイ	稚内の歴史・間宮林蔵・樺太関連の資料展示と展望塔からの稚内市街地・利尻島・礼文島・宗谷海峡・樺太が望める郷土博物館、冬季休業、植物園や展望公園もあり、記念館・記念塔直前の遊歩道は稚内に関わる俳句が書かれた標柱が点在する「文芸の小径」となっている
44	ノシャップ岬フットパス	散策体験歩行路	中央・宝来・恵美須・ノシャップ	稚内駅および稚内港北防波堤からノシャップ岬までの散策路で、昆布干場・漁船・船溜まり(稚内港北船溜)や水産加工場の所在する約5kmの沿海岸散策路で、宗谷湾・宗谷岬方面も遠望でき、冬季も歩行可能
45	ノシャップ公園	地区公園・複合レジャー公園	ノシャップ	パークゴルフ場・ソフトボール球場・庭園・児童遊具場・トイレのある公園で、敷地内に稚内市スポーツセンターあり、直近ではエゾシカ出没地として有名
46	稚内市スポーツセンター	体育施設(総合)	ノシャップ	カーリング場あり(アーチェリー場・弓道場も)
47	ノシャップ岬(恵山泊漁港公園)	自然・文化観光地	ノシャップ	稚内市北西端の岬で、稚内灯台あり、利尻富士を望め、一帯は漁港公園、夕焼けが綺麗、近隣に食堂・土産物店もあり
48	ノシャップ寒流水族館・稚内市青少年科学館	文化施設	ノシャップ	小規模ながら寒流系魚種を中心とする水族館とエネルギー・環境・南極に関する展示とプラネタリウムを備えた学習・研修施設で、同敷地内に所在、4月末から11月および2・3月に営業
49	稚内市富士見総合運動公園	体育施設・運動公園	富士見	球技場・テニスコートに加え、稚内市総合体育館あり
50	稚内温泉童夢	温泉施設	富士見	日本最北の日帰り温泉施設、食堂・休憩所あり
51	夕日が丘パーキング	駐車場	ヤムワッカナイ	トイレ・芝庭園・展望公園あり
52	利尻礼文サロベツ国立公園	自然観光地	バツカイ以南西海岸	海岸沿いに砂丘列と湿地帯、利尻富士を遠望できる
53	抜海岩陰遺跡	歴史観光地	バツカイ	オホーツク文化人の遺跡で近隣に抜海神社、稚内市指定史跡
54	浜勇知展望休憩施設(こうほねの家)	自然観光地	ユーチ	稚内市西海岸の道道106沿線休憩施設、浜勇知園地散策木道入口に森繁久彌氏の歌碑あり

基本的に地域住民以外の外来者が訪問・利用可能な施設・園地を列挙した。宿泊施設と単独の商店・飲食店をのぞく。(稚内市役所・稚内観光協会「公式ガイドブック稚内」(平成29年4月)と稚内商工会議所「稚内フットパス」(平成30年)と稚内市教育委員会「稚内市遺跡マップ」および現地調査により作成)

仮想「稚内」のイメージに未だに十分に浸透してはいない。

3. 稚内市における空間商品化の未来性

稚内市の地域個性が冬季に最も発揮されると思われるのにもかかわらず、その冬季の外来者は夏季よりも少ない。反面、仮想空間上では、「稚内」は冬季の日本最北端、「極北」のイメージが強い。つまり、「稚内」はそれよりも南の地域、あるいは繁華な都会からの視線に縛られて基本的にはイメージ形成されている。稚内市役所の観光ポスターも、「日本のてっぺん」を自称する。「稚内ブランド」は、それに対して、独自の生活評価基準を稚内内部に置く試みであり、外来者を仲間へ誘う試みともみえる。とすれば、あと足りないのは何か？それは、「稚内」

における冬の生活の楽しさのアピールであり、秋・春の生活の充実度の適度な広告ではないか。すでに稚内市役所や市民の努力は十分になされているかも知れないが、それで振り向かない人々を無理に誘う必要もないだろう。夏季については、すでに実体験の観光客も数多く、仮想空間上もすでに「突き抜けた爽やかさ」のイメージを保有できる可能性が示されている。稚内出身の3人組ロックバンド GALILEO GALILEI のベストアルバム『車輪の軸』(2016年)の各楽曲にも「突き抜けようとする若い爽やかさ」「爽やかな日差しと風」が感じられる。さらには、稚内に住みながら、「ドンつまり」とはほど遠い生活を楽しんでいる人びとは少なくないであろう。実際、国境を意識しなければ、稚内の北にも同じように地球の海陸は続いている。「稚内十景」や「稚内十二景」

を選ぶのなら、市街地も郊外も含めた四季の稚内生活風景が選ばれて然るべきである。

稚内における空間商品化を他地と比較対照すると、羅臼・標津（篠原，2013）と同様に「局地的」である稚内も、地域を支えようとする住民努力（市役所も含む）の大きさが目立つ。北茨城（市川・橋本・横山，2015）の空間商品化と比較すると、稚内は地元漁業・漁港利用の点で共通するが、「首都圏への近接性」を活かした観光を目指すわけではない点で異なる。黒部（横山，2015）の空間商品化と比較すると、漁村らしさを活かした観光を考えている点で、稚内にはまだあまりない点で、十分に参考にできる。「稚内」は漁村も水産都市も酪農地域も自然・歴史観光地も含み、何よりも「局地」性を有する日常生活が展開する大都市僻遠臨海地域である。

稚内市に住んできた人びとのなかには、稚内を必ずしも永住の地とは考えず、働き終えて故郷に帰る人びともかなりいたようである。それが悪いのではないが、結局は稚内の自然と人びとに惚れて、四季と生活の楽しさに惹き付けられて住み続ける人びとが中心となり、過去・歴史も継承しつつ、「稚内」をこれからより本格的に再編していく可能性が高い。大都市僻遠臨海地域の地場産業である水産業は、以前ほどではないとしても、稚内市各地の特色ある景色や日常生活とともに、今後も「稚内」を支える重要な存在であり続けることは間違いない。

本稿は結果的に「稚内に関する空間商品化」を詳細に十分に検討・考察するものにはならなかった。今後さらに、「稚内における商品化空間の形成過程とその特性」あるいは「稚内を舞台とする文学・映像作品の地域性」さらには「稚内における漁港漁業の発達」についても調査研究を進めることとしたい。

本稿を作成するにあたっては、科学研究費補助金（基盤研究（C）「日本の大都市僻遠臨海地における水産業の地誌学的研究」（課題番号 16K03182；平成 31・令和元年度）の一部を使用しました。

文 献

- 市川康夫・橋本暁子・横山貴史（2015）：茨城県北茨城市平潟町における水産資源を活用した観光地化. 田林明編著『地域振興としての農村空間の商品化』農林統計出版, pp.299～316.
- 羽海野チカ（2005）：『ハチミツとクローバー』第7巻, 集英社クイーンズコミックス, 184頁.
- GALILEO GALILEI（2016）：アルバム『車輪の軸』SME Records, CD 2枚（63分+70分）.
- 「北の映像ミュージアム」推進協議会編（2009）：『北海道シネマの風景』北海道新聞社, 312頁.
- 小泉今日子主演・國原俊明・増村保造監督（1985）：『少女に何が起こったか』大映テレビ・TBS, 全12話.
- 篠原秀一（1992）：日本における主要水揚漁港の魚種構成による分類と分布パターン. 地学雑誌, 101-1, pp.38～58.
- 篠原秀一（2008）：漁業本拠地と漁業水揚地の地域分布からみた北海道沿海の水産地域区分. 秋田地理, 28, pp.31～54.
- 篠原秀一（2013）：北海道羅臼町・標津町における漁村空間の商品化とその地域性. 田林明編著『商品化する日本の農村空間』農林統計出版, pp.93～109.
- 篠原秀一（2018）：市町村別昼間人口と漁業者数からみた日本列島臨海地域の漁業集積と都市僻遠性. 秋田大学教育文化学部研究紀要（人文・社会科学）, 73, 47～58.
- 荘司としお（1976）：『サイクル野郎』第10巻, 少年画報社ヒットコミックス147, 228頁.
- 国立天文台編（2019）：『理科年表2020』丸善出版, 1162頁.
- 総務省統計局（2019）：『日本の統計2019』総務省統計局, 308頁.
- 北海道文学館編（1979）：『北海道文学地図』北海道新聞社, 125頁.
- 横山貴史（2015）：地域資源を活用した漁村地域の活性化－富山県黒部市生地地区の事例－. 田林明編著『地域振興としての農村空間の商品化』農林統計出版, pp.317～341.
- 吉永小百合主演・阪本順治監督（2012）：映画『北のカナリアたち』東映, 122分.
- 吉永小百合主演・滝田洋二郎監督（2018）：映画『北の桜守』東映, 126分.
- 稚内市役所水産商工課編（2019）：「令和元年稚内の水産」稚内市役所, 27頁.
- 稚内市役所総務防災課編（2018）：『稚内市統計書平成29年版』稚内市役所, 158頁.
- 稚内市役所総務防災課編（2019）：『稚内市統計書平成30年版』稚内市役所, 158頁.
- 稚内市役所公式ホームページ <https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp>（2019年12月14日閲覧）